

広島市歯科医師会だより

一般社団法人広島市歯科医師会

第 141号

(H31.1.10)

今月のトピックス

広島県歯科医師会会長予備選挙について	1 ページ
新年のご挨拶	2 ページ
行事報告	
第 5 回支部長・副支部長会	3 ページ
広島市歯科医師会クリスマスパーティー	4 ページ
支部だより	
中区支部	4 ページ
東区支部	5 ページ
南区支部	6 ページ
西区支部	8 ページ
各部からの報告	
地域歯科保健部	8 ページ
広報部	9 ページ
FM ちゅーピー	16 ページ
12 月定例理事会報告	16 ページ

広島県歯科医師会会長予備選挙について

広島県歯科医師会選挙管理委員会からの通知のとおり、広島県歯科医師会会長予備選挙が実施されます。

本会会員におかれましては、広島県歯科医師会の将来を決める大切な選挙です。必ず投票されますようお願いいたします。

尚、広島市歯科医師会では理事会協議を経て、川原正照会長が甲野峰基氏の推薦人を受諾することを決定したことを申し添えます。

記

○選挙期日 平成 31 年 1 月 20 日(日)午前 9 時から午後 3 時

○選挙場 第 1 選挙区(広島市)
広島県歯科医師会館 2 階 「広島市歯科医師会 大会議室」

○期日前投票 平成 31 年 1 月 15 日(火)～1 月 17 日(木)
午前 11 時～午後 8 時
場所：広島県歯科医師会館

○立候補者指名(届出順)及び推薦者(敬称略)

荒川信介(広島市)

推薦者

関野憲三 (広島市)	三反田孝 (安芸)	赤木真一 (佐伯)
吉光博史 (安佐)	有田一郎 (広島市)	清水勢一 (安佐)

田辺文彦 (安芸) 福場祥郎 (呉) 山田庸二 (広島市)
高木秀樹 (安芸) 中山 弘 (福山) 佐野隆志 (広島市)

甲野峰基 (佐伯)

推薦者

新田栄治 (佐伯) 高木勇藏 (広島市) 川原正照 (広島市)
森田行雄 (広島市) 折田伸二郎 (三次) 小山重夫 (尾道)
馬越堅司 (福山) 和田龍彦 (福山) 椿田直也 (広島市)

岡田信彦 (安芸) 候補は立候補を辞退されました。

○候補者のマニフェストについて

広島県歯科医師会ホームページに掲載されるとともに、選挙管理委員会より送付されます。

○選挙権を有する者 平成30年11月21日以前に入会した者

○本会理事会の対応

候補者のうち、甲野峰基氏より川原正照会長に推薦の依頼があったことを受けて、川原会長と甲野氏との面談、その後の理事会協議をへて、甲野峰基氏の推薦人を川原正照会長が受諾することを決定した。

注意事項 投票にあたっては、事前送付の「一般社団法人 広島県歯科医師会会長予備選挙 選挙投票資格証」が必要です。必ずご持参されますようお願いいたします。

また、投票に際しては、各候補者のマニフェスト等を参考にしてご投票ください。

謹賀新年



会員の先生方、新年明けましておめでとうございます。

新しい年、平成31年を迎え、ご家族御一統様共々、つつがない新年をお迎えになられたこと、心よりお慶びを申し上げます。

さて昨年は広島市歯科医師会創立100周年記念祝典が開催され、多くの会員の先生方に参加していただきました。今回の祝典ではこれまで広島市歯科医師会を支えていただいた先達の先生方や現会員の先生方に感謝することに重点を置き、会員全員でお祝いする形で開催させていただきました。現在、椿田委員長を中心とする編集委員会に記念誌の編纂をお願いしているところです。

今年一年も、先達が残してくれた財産・偉業にあぐらをかくのではなく、新しい知恵と勇気と覚悟をもって、「未来へ継承する歯科医師会の構築」に向け、総力を挙げて取り組んでいく所存ですので、先生方のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

結びに、会員の先生方の今年一年のご健勝とご多幸を祈念致します。

平成31年1月5日

(一社)広島市歯科医師会会長 川原正照

行事報告

第5回支部長・副支部長会

日時：12月19日(水)午後7時30分

場所：県歯会館2階「本会大会議室」

執行部から川原正照会長、熊谷宏副会長、本山智得専務理事が出席した。

始めに川原会長より、「県歯会長予備選挙が開催されます。広島県歯科医師会の将来を決める大切な選挙です。支部長・副支部長の先生におかれましては、支部に戻られて、必ず投票に行くよう、棄権をしないよう、支部会員に周知していただきたい。尚、広島市歯科医師会では理事会協議を経て、川原正照会長が甲野峰基氏の推薦人を受諾することを決定したことを申し添えます。」との挨拶があった。

中区支部

- 10月19日 第8回幟町圏域多職種連携会議
- 10月21日 (県)健康ソフトボール大会
- 10月22日 第10回ケアマネジメント会議
- 10月26日 広島県言語聴覚士西部地域講習会
- 10月29日 新入会希望面談
- 11月5日 第11回ケアマネジメント会議
- 11月6日 幟町圏域多職種連携会議反省会
- 11月12日 小松昭紀顧問通夜
- 11月13日 小松昭紀顧問告別式
- 11月14日 中区支部説明会
- 〃 新入会希望面談
- 11月19日 第6回中区地域ケアマネジメント会議
- 11月26日 吉島圏域多職種連携会議小委員会
- 12月5日 支部説明会
- 12月8日 吉島圏域多職種連携会議
- 〃 中4班班会

東区支部

- 10月10日 第39回東区子育て交流ひろば運営協議会
- 10月14日 広島県地域医療介護総合確保事業摂食嚥下機能訓練研修会
- 10月17日 第4回支部長・副支部長会
- 10月19日 東区在宅医療研修会
- 10月21日 (県)健康ソフトボール大会及び慰労会
- 10月23日 後期高齢者歯科健診研修会
- 10月26日 県立広島病院地域連携歯科懇談会
- 11月2日 東区市民公開講座 準備、設定
- 11月3日 東区市民公開講座
- 11月7日 救急蘇生講習会
- 11月8日 同行研修 牛田圏域
- 11月9日 緩和ケア研修会
- 11月10日 第72回広島県歯科医師連盟臨時評議員会
- 11月11日 日本子ども虐待防止歯科研究会・学術大会
- 11月22日 同行研修 二葉圏域

- 12月6日 同行研修 戸坂圏域
- 12月7日 二葉圏域 医療と介護・地域の多職種連携会議
- 12月11日 ひかりまち小児歯科・矯正歯科移転開業

南区支部

- 10月25日 南区支部理事会
- 10月26日 県立広島病院地域連携懇談会
- 10月29日 南区在宅医療連携を考える会
- 11月8日 南区支部学術講演会
- 11月10日 第72回広島県臨時評議員会
- 11月29日 南区支部理事会
- 12月5日 南区支部忘年会及び長寿を祝う会
- 12月7日 段原包括圏域在宅医療・介護関係者研修会
- 〃 広島県立病院医局会忘年会
- 12月10日 中本弘広島市市議会議員在職50周年記念祝賀会
- 12月19日 第5回支部長・副支部長会
- 〃 在宅医療・介護連携推進事業の同行研修
- 12月30日 年末休日歯科救急医療実施(洋光歯科クリニック)
- 12月31日 年末休日歯科救急医療実施(森永歯科医院)

西区支部

- 10月18日 己斐・己斐上包括連携会議
- 10月21日 (県)健康ソフトボール大会
- 10月25日 観音認知症応援団
- 〃 井口台・井口介護連携会議
- 10月26日 県立病院地域連携歯科懇談会
- 11月1日 新規入会中谷美奈子先生
- 11月2日 新規入会中田穰先生
- 11月4日 第34回西区民まつり
- 11月8日 古田圏域医療介護連携会議
- 11月10日 第72回臨時懇親会
- 11月17日 西区市民公開講座
- 11月29日 観音圏域医療と介護連携会議
- 12月1日 西区区部会 平成30年忘年会
- 12月3日 西区支部会員

- 杉原洋通先生逝去さる
- 12月30日 年末休日歯科救急医療実施
(はしかた歯科 小児歯科)
- 12月31日 年末休日歯科救急医療実施
(アップル歯科クリニック)

協 議

①執行部

- ・広島県歯科医師会会長予備選挙への対応について

②中 区

- ・新入会希望会員における説明会について
- ・中国新聞 12月2日の記事について
- ・日歯県歯会長選挙について

③東 区

- ・大学病院へ患者さんを紹介したが、受け入れを拒否されたという症例があったと支部会員から情報提供があったことについて。

④南 区

- ・年末休日歯科救急医療の協力手当について
- ・来年5月の休日救急診療について

広島市歯科医師会クリスマスパーティー

日時：12月22日(土)午後4時15分
場所：ANAクラウンプラザホテル広島3階「オーキッド」

恒例の標記パーティーに447名が参集し、開催された。

岸田文雄自民党政調会長はじめ多くのご来賓にもご出席頂き、和やかな雰囲気の中、恒例のお楽しみ抽選会等で盛り上がった。今年は「梅沢富美男ディナーショー」で会員の先生方やご家族、従業員にお楽しみ頂いた。梅沢富美男氏はさすがのパフォーマンス&サービス精神でパーティーを盛り上げて頂き、ご参加の皆様がたからも大変好評であった。

保険・医療対策部で31年度も様々な福利厚生事業を予定しているので奮ってご参加頂きたい。



挨拶する川原正照市歯会会長(左)と会場の様子(右)

支部だより

中区支部

第11回吉島圏域多職種連携会議

日時：12月8日(土)午後3時
場所：吉島福祉センター2階「多目的ホール」

中区吉島東の吉島福祉センターにて、標記会が開催された。

中区医師会の小西太理事の開会挨拶に始まり、趣旨説明が田丸卓弥吉島圏域在宅医療推進リーダー医よりなされ、講演へと移行した。

講師に吉島病院の西岡徳子病棟師長を迎え、「ACPの振り返り」の演題の下、健康状態・疾病ステージに応じたACPの活用に関して、いかに意思決定支援から意思表示支援へとつなげていくことが肝要であるという内容を、非常にわかりやすくかみ砕き話された。引き続き事例紹介へと移行し、講師にサンキウエルビィ小規模多機能センター吉島の木田裕子センター長を迎え、「ACPの取り組み」という演題で、同センターで実際に行われた内容が話

された。それはある高齢女性の事例で、入所から看取りに至るまで、様々な紆余曲折があったものの、ACPを通して様々な意思決定へと結びつけることができ、最期を迎えても、遺族の間でのトラブルが起こらなかったという内容であった。そして、グループワークへと移行し、「それぞれの立場で、日頃からもっと気楽にACPに取り組むために」というテーマで、各職種間の活発な意見交換が行われた。

今回新たなACPの取り組みとして、広島県を中心とした自立支援多職種ネットワーク推進会議より「これから手帳」の配布が行われており、その情報提供があまり居宅介護支援事業所の平田耕造介護支援専門員より行われた。

最後にまとめとして、広島市中区厚生部の宮城昌治医務監より、閉会挨拶が高橋浩一吉島圏域在宅医療推進リーダー医より行われ、会議を終了した。

なおこの会議には、中区支部より波田佳範支部長、加藤千季氏、小島将督氏、小松大造氏、辰本将哉氏、橋本佳子氏、平野隆司氏、若林大輔氏の8名が出務した。



会議に出務した中区支部会員

中区支部中4班班会

日時：12月8日(土)午後6時

場所：「上関芸陽」

上関芸陽において、中4班の忘年会が開催された。

鈴木良貴副班長の司会進行の下、後藤光宏班長の挨拶、年長者の吉岡道治氏の挨拶へと移行し、乾杯の音頭は波田佳範中区支部長によって発せられた。

寒さが一層身に伝える時節柄、瀬戸内の海の幸に舌鼓を打ちながら、出席者一同、平成最後となる忘年会を通して、この一年を振り返り、来る年がいい年であることを願い、楽しいひと時を過ごした。



忘年会に参加した中区支部4班の会員

東区支部

牛田・早稲田地域包括支援センター主催 口腔ケア講座

日時：12月6日(木)午前10時30分

場所：「早稲田市営集会所」

標記講座が早稲田市営集会所で開催され、加藤正昭東区支部会員(地域歯科保健部副委員長)が「口腔ケアについて」と題して、早稲田地区の70~80代の住民26名に講演を行った。

講演では「お口の中を清潔にする」とことと「お口の働きを維持、向上する」とことについて解説した。まず、う蝕や歯周病は細菌性の疾患であることを示し、誤嚥性肺炎や動脈硬化・糖尿病など全身疾患と、歯周病との関わりについて説明した。歯周病予防では日々のセルフケアと定期的なプロフェッショナルケアが重要であることを強調した。続いて、口腔機能の維持・向上のための体操などについて解説し、参加者全員で「パタカラ」の発声練習と合唱を行った。

講演後の質疑応答では、歯間ブラシの使用方法やプロフェッショナルケアの頻度についての質問があり、参加者の健康維持への関心の高さが伺われた。

今後も東区支部では地域からの講演依頼には積極的に対応し、市民に対して口腔の重要性を啓発していく予定である。



講演の様子

広島市東区地域保健対策協議会 第3回常任理事会・理事会

日時：12月21日(金)午後7時

場所：広島市東区総合福祉センター4階「ボランティア研修室」

標記会議が広島市東区地域保健対策協議会の主催で開催された。住吉秀隆地対協常任理事の司会進行により、佐藤修治東区地対協会長(東区医師会会長)の挨拶で始まった。報告事項として、地対協運営委員会報告、在宅医療研修会、救急蘇生講習会、緩和ケア研修会、市民公開講座の報告がなされた。中でも東区市民公開講座は大変好評で、申込者の約半数をお断りせざるを得ない状況であった為、来年度も講師を立川らく朝氏にお願いすることとなった。続いて今後の予定について、医療倫理研修会、多職種研修コーディネーター研修会、東区市民フォーラム、広島市認知症高齢者等保護情報共有サービス、東区保健・医療・福祉総合相談窓口、かかりつけ医の医師と精神科医の連携強化事業について、それぞれ報告が

なされた。東区市民フォーラムでは、元広島東洋カープ投手である渡辺弘基氏を講師に迎える予定である。また、今年度11月12日からモデル的に開始された広島市認知症高齢者等保護情報共有サービスは、認知症による徘徊行動が頻繁にみられる要支援・要介護者に対象者の情報を携帯電話等で読み取ることのできるQRコード付きのラベルシール(見守りシール)を交付するもので、東区でもその周知を図るべく対策を協議した。その後、介護保険研修会と圏域地対協研修会について協議した後、篠原富子東区地対協副会長(東区長)の挨拶により閉会となった。会議には、能美和基本会地域歯科保健部理事と寺迫環東区支部長が出席した。

南区支部

平成30年度 広島市在宅医療・介護連携推進事業 広島市南区市民公開講座

日時：11月17日(土)午後2時

場所：「広島市南区民文化センターホール」

南区地域保健対策協議会と南区役所の主催で、「今からはじめよう！わくわく終活～豊かな人生を送るために～」と題した市民公開講座が開催され、中高年層を中心として多数の住民が参加した。

有馬隆地域歯科保健部理事が司会を務め、北本幹也南区地域保健対策協議会副会長ならびに白惣雅和南区副区長の挨拶により市民公開講座は始まった。最初に、中谷玉樹南区医師会理事の広島県地域保健対策協議会が配布する「私の心づもり」について解説した。・終末期において7割の患者が自己による意思決定が不能になることを背景として、アドバンスティクティブからアドバンスケアプランニングへ移行している・患者が自分の為、そして家族の負担とならないために、代理決定者、医療者と自分にとって大切なことを予め話し合うこと、またその過程を共有することによって深い理解が得られ、予想しなかったような複雑な状況になっても対応できるようになる可能性が高まる・病状や治療内容の変化によって定期的に見直し、それを共有することが大切。それにより患者や家族の満足度が向上し、遺族の不安や抑うつ症状を和らげることができる。などの内容で講演された。

続く基調講演では、斎藤孝明治大学文学部の教授が「悔いのない人生 死に方から生き方を学ぶ『死生学』」と題する講演を行った。「精神」と「心」を分けて考えることが大切。心は常に浮き沈みがあるもの。精神という形のある土台を作った上に心に乗せるのが良い。精神は言葉を通じて伝えられるものである。誰かの言葉を引用して諳んじることによってその精神を自分の中に入れることができるとして、平家物語の那須与一、吉田松陰の「留魂録」、「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」の葉隠、夏目漱石の「坊っちゃん」などを紹介し、参加者と共に音読した。音読は読む直前に意味を理解しないとスラスラ言えない。思っている以上に複雑な作業なのでこれが前頭葉を刺激する。「音読は認知症唯一の劇薬。」とのことであった。「悔いのない人生」をどのように考えていけばよいかについて、「死をあまり重く考えすぎない。ing形で生きていって、気が付いたら死んでいたというのがよい。なんでもいいから、これをやれるんなら、自分がご機嫌に過ごせそうだ、という明るい人生設計を考えよう」とのことで、観客全員が立ち上がって実習を行うなど80分の講演は、終始熱気を帯びていた。

最後に佐藤貴氏南区地対協副会長の閉会の辞を述べ終了した。



市民公開講座の様子

広島市南保健センター主催 生活習慣病予防教室

日時：12月5日(水)午後1時30分

場所：「段原公民館」

標記の生活習慣病予防教室が開催され、中川誠南区支部会員（地域歯科保健部委員）が「おいしい食事はお口の健康から！歯周病と生活習慣病の深い関係」と題して段原地区の60～80代の地域住民30名に対して講演を行った。

講演では、まず歯周病とは細菌による感染症であり、歯周組織の炎症による破壊であることを説明した。続いて歯周病菌や細菌由来の病原因子等が歯肉の血管から血液に入り込み、全身へと運ばれて糖尿病や動脈硬化などに悪影響を与えていることを解説した。また

歯周病の治療・予防によって全身の健康に寄与できることを示した。

その後、國田さおり管理栄養士（野島内科医院）による食事指導が行われた。

自覚症状の少ない歯周病の予防には、かかりつけ医による定期健診と適切な指導とともに、毎日の丁寧なセルフケアが大事である。今後も口腔機能の維持・向上が全身の健康管理に繋がり、やがては健康寿命の延伸にもなることを地域住民へ周知していくことにしている。

南区支部忘年会及び長寿を祝う会

日時：12月5日(水)午後7時30分

場所：リーガロイヤルホテル広島32階「エメラルドルーム」

標記会が本会から川原正照会長、熊谷宏副会長、本山智得専務理事、県病院から桐山健歯科主任部長、延原浩歯科部長に出席して頂き、35名の参加で行われた。

伊藤良明南区支部理事の司会のもと、玉川幸二南区支部長の歓迎の挨拶の後、川原会長の挨拶、桐山主任部長の挨拶に続き、土江健也氏の乾杯により始まった。

しばらく歓談後、乾杯のシャンパン、日本酒の持ち込み「エメラルドルーム」使用に関して、吉武政博南区副支部長より紹介があった。

長寿の祝いとして、八島敏彦氏が喜寿を歌野原実氏、大平勇治氏が古希を迎えられ、お祝いを授与された。

また、そのお祝いの感想を各先生が述べられた。

次に、新入会員の森本直嗣氏、河内勝史氏、鎌田俊之氏の紹介と挨拶があり、また平井由美南区支部理事より、ソフトボール大会の優勝の結果報告があり、支部より各出席選手に景品の授与が行われた。

その後、料理に舌鼓を打ちながら親睦を深め、最後に吉武副支部長の閉会の辞により、午後10時前に盛況のうちお開きになった。



長寿を祝う会に出席をした
(左より) 大平勇治氏、
八島敏彦氏、歌野原実氏

西区支部

第6回 観音圏域医療と介護の連携会議

日時：11月29日(木)午後7時

場所：西区地域福祉センター3F「大会議室」

標記会議が観音地域包括支援センターの主催で開催され、歯科医師、医師、薬剤師、介護関係者約50名が出席し、活発な意見交換が行われた。

会議では山本匡西区医師会会長の挨拶に始まり、松浦将浩安芸市民病院診療部緩和ケア部長が「支援者がまず考えようアドバンス・ケア・プランニング～私の心づもり～」と題する講演を行った。松浦氏はアドバンスケアプランニング(ACP)についての基礎知識や導入の重要性を解説し、エンディングノートとは違い、本人の代わりに意思決定をしてくれる代理人が必要なことについて実際の事例を交えながら本人、家族、支援者のかかわり方を説明した。

講演後、それぞれのグループに分かれてグループワークが行われ、介護の現場や家族の

ACPを行うにはどうすればいいのかを話し合った。「本人、家族にACPを勧めるタイミングが難しい」「本人の意思決定の代理人を誰にするかが大事」「代理人の意思決定を実行するためにかかりつけ医の参加も必要」などの意見が出た。

その後、今田哲生広島市薬剤師会常任理事から、患者が飲み残した薬や未使用の外用薬が散見されることから、薬の適正使用のための残薬報告書の活用方法について説明があった。最後に平林一郎西区医師会副会長の閉会の辞で会議は終了した。なお、西区支部からは岡田浩幸氏、濱岡代枝氏、平尾慶太氏、村上和億氏、山崎香氏が参加した。

今後もACPの普及に歯科もどのように関わられるのか、多職種連携会議での意見交換を通じて考えていきたい。

各部からの報告

地域歯科保健部

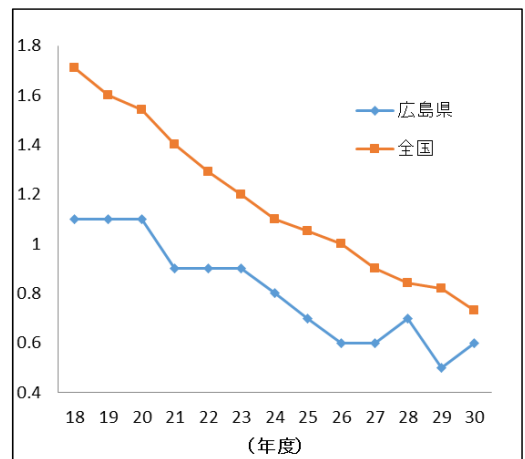
通説は過去の栄光となる運命か？

～平成30年度の広島県の12歳児DMFTは0.6～

昨年12月21日に文部科学省及び広島県が平成30年度学校保健統計調査(速報値)を発表した。中学校1年生のみを調査対象とする「永久歯の一人当たりの平均むし歯等数(12歳児DMFT)」は前年比で微増し0.6(全国値は0.73)となり、全国値に対するアドバンテージは大きく減少した(前年0.32→本年0.13)。また、前年値を上回るのは

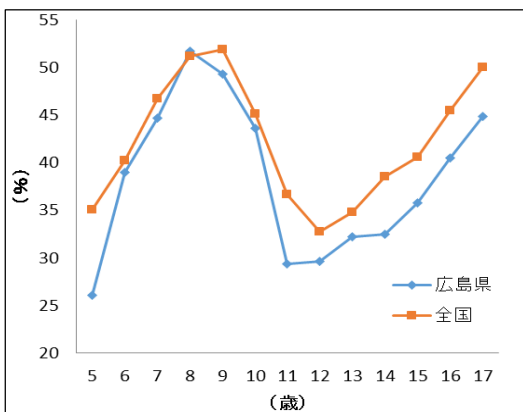
平成28年度以来のこと
で2度目。(図1)

広島市歯科医師会 地域歯科保健部



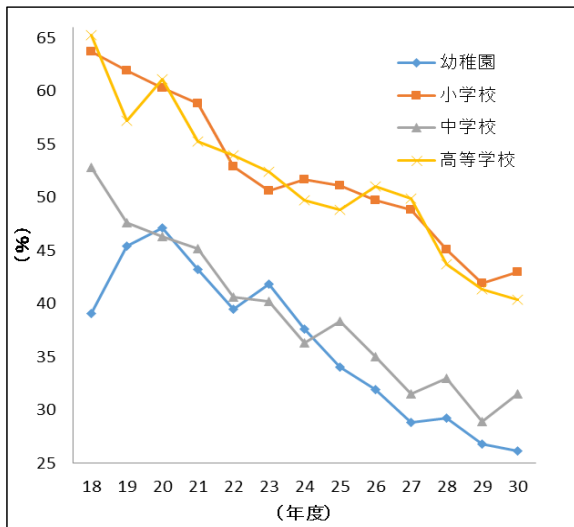
【図1:12歳児DMFTの年次推移】

年齢別のう歯被患率は、例年通り小学校中学年付近にピークを持つN字型を示す。今年度の特徴は8歳児(小学校3年生)で、若干ではあるが全国値を上回ったこと(広島県51.7、全国51.16)。全国値を上回る学年の出現は、おそらく今回が初めて。「広島県はむし歯が少ない県」とする通説は過去の栄光となりつつあるのだろうか。(図2)

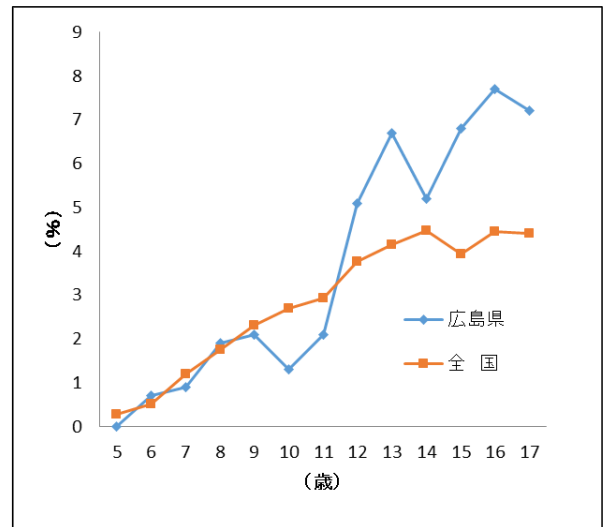


【図2:う歯の被患率(年齢別 全国との比較)】

学校種別う歯被患率の年次推移は小学校及び中学校で被患率が増加したことを示している(図3)。歯肉炎の被患率は例年同様に小学校高学年から急激に立ち上がり、以降の全学年において全国値を上回った(図4)。



【図3: 学校種別 う歯被患率の年次推移】



【図4: 歯肉炎の被患率(年齢別 全国との比較)】

広 報 部

今月の知っておきたいこと

リンク切れはご容赦を。
記事の確認は自己責任にてリンク先でお願いします。
最新記事はホームページにてご覧ください。

▼社会保障費の自然増は4768億円 - 19年度予算案

政府は21日の臨時閣議で、2019年度予算案を決めた。一般会計は総額101兆4564億円で、このうち厚生労働省の関係予算案は32兆351億円(18年度当初予算比2.9%増)。社会保障費のうち医療費11兆9974億円(同1.6%増)と介護費3兆2301億円(同3.7%増)を合わせ、同3043億円増加した。

臨時閣議後に記者会見した根本匠厚労相は、「全世代対応型社会保障の基盤強化に取り組むため、必要な予算を確保した。厚生労働省予算全体としては前年度2.9%増の予算を確保した。これは過去最大の規模となる」と説明した。また、「健康寿命の延伸や生産性の向上、柔軟な働き方という構造的な問題に取り組んで、給付と負担の見直し、効率化・重点化に併せて取り組んでいきたい」と述べた。厚労省の予算案は、▽働き方改革・人づくり革命・生産性革命▽質が高く効率的な保健・医療・介護の提供▽すべての人が安心して暮らせる社会に向けた福祉等の推進—が柱。「働き方改革・人づくり革命・生産性革命」では、医療従事者の働き方改革の推進に15億円を盛り込んだ。タスク・シフティング(業務移管)など勤務環境改善の先進的な取り組みを行う医療機関に補助し、業界団体による好事例の普及を支援する。また、都道府県の「医療勤務環境改善支援センター」から医療機関に労務管理の専門家を派遣して支援したり、医療への適切なかかり方を広めるためのウェブサイトを構築したりする。医療分野での生産性の向上にも15億円を計上。全国的な保健医療情報ネットワークの稼働に向けて、患者の同意の下で情報を共有する上での課題の検討・実証を行う。「質が高く効率的な保健・医療・介護の提供」では、データヘルス改革の推進に722億円を計上し、ナショナルデータベース(NDB)や介護保険総合データベースなどで保有する健康・医療・介護情報の連結に加え、その分析のための環境整備などに充てる。医療保険のオンライン資格確認のシステム開発にも取り組む。健康寿命の延伸に向けた予防・健康づくりにも31億円を計上した。食事摂取基準を活用した高齢者のフレイル(虚弱)予防の推進や、生活習慣病の重症化予防などの先進的なデータヘルス事例の全国展開に充てる。介護関連では、人材の確保・処遇改善に352億円、地域医療介護総合確保基金を活用した介護施設の整備に467億円を計上した。18年12月に閣議決定した「新しい経済政策パッケージ」に基づく処遇改善や、外国人人材の受け入れ環境の整備を推進する。障害や保育分野を含めた生産性向上の推進には、44億円を充てる。介護ロボットの提案から開発までをけん引するプロジェクトコーディネーターを配置して、現場ニーズを開発内容に反映させるなど介護ロボットの開発・普及を推進するほか、事業所における情報通信技術(ICT)の活用支援を拡充する。

Yahoo! ニュース(2018年12月21日)

▼ゴールデンウィーク 10 連休中の医療体制を調査へ - 厚生労働省、過去最長の対応に「万全期す」

厚生労働省は 20 日、救急・災害医療提供体制等の在り方に関する検討会に対し、2019 年ゴールデンウィークの 10 連休の医療提供体制に関する調査を行う方針を示した。「今回の連休は過去最長であり、必要な医療機能が提供されるよう万全を期す必要がある」と説明。年末年始など連休中の救急医療体制などを参考に対応を促す狙いがある。

皇太子さまの新天皇への即位に伴い、19 年 4 月 27 日から 5 月 6 日まで 10 連休となることを踏まえた措置。都道府県の協力を得て、地域ごとに組まれた連休中の医療提供体制を確認し、3 月ごろを目途に各自治体が住民に周知できる体制を整えたい考えだ。10 連休中の対応について、厚労省は年末年始などの連休で組まれる救急病院の輪番制や休日急患診療所などの医療提供体制を想定している。地域の輪番制当番医として休日診療が行われた場合、休日加算が算定できるため、輪番制で対応することも見込まれる。ただし、医師や看護師、事務職員らに休日出勤を強いることになるため、職員の理解が得られなかったり、シフトを組めなかったりする恐れもある。特に医療機関が少ない地域では、長期の輪番制を組むことが困難なケースが想定されるため、自治体が医療機関の休暇一覧リストを作り、あらかじめ住民に周知しておく必要もありそうだ。

Yahoo! ニュース (2018 年 12 月 21 日)

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20181221-14250000-cbn-soci>

ニュースピックアップ

▼社会保障費を 4800 億円増に圧縮…来年度予算、薬価引き下げなどで

政府が編成する 2019 年度予算案で、高齢化に伴う社会保障費の伸び（自然増）を約 4800 億円とする方針を固めた。16～18 年度の 3 年間は毎年 5000 億円だったが、今回はそれを下回った。

概算要求段階では 6000 億円と見込まれていたが、約 1200 億円圧縮する。具体的には、薬価の引き下げ（約 500 億円）、高所得の人が負担する介護保険料の引き上げ（約 600 億円）が柱となる。

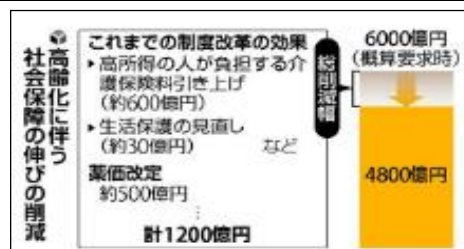
今年 6 月にまとめた「経済財政運営と改革の基本方針」（骨太の方針）では、自然増について目標の明記が見送られ、予算編成の焦点となっていた。

また、19 年 10 月から、低所得で 75 歳以上の後期高齢者に対する医療保険料の軽減特例を廃止するのに伴い、当面は対象者の実質的な負担を増やさない方針も固めた。低所得の年金生活者への給付金などを始め、それでも賄えない一部の対象者には、国が 1 年間、一部の医療保険料を補充する。

所得の低い住民税非課税世帯などに向けた「プレミアム付き商品券」もあわせれば、19 年 10 月の消費増税後の一定期間、所得が低い後期高齢者のほとんどは、実質収入が増える。

yomiDr (2018 年 12 月 17 日)

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20181217-OYTET50000/?catname=news-kaisetsu_news



Point of View

◎政府も赤字家計を預かって何とか持ちこたえようとあの手この手を使って予算削減を図っているようです。かと言って所得の少ない人は援助しないといけないし・・・まさに苦心惨憺という状態ではないでしょうか。

▼子どもの虫歯放置「親が多忙」「現金負担が壁」 全国ワースト沖縄の窮状

虫歯の早期発見・治療が目的の学校歯科検診で、歯科受診を促された児童・生徒の 7 割超が未受診だったことが明らかになった。12 歳児の永久歯の 1 人当たりの平均虫歯本数が全国最多の沖縄。背景に親の厳しい就労環境など貧困を指摘する声がある中、県も未受診率の改善に向けて独自の取り組みを模索する。

低所得世帯は原則無料だが…

「母子家庭で母親が夜勤のため、寝る屋間は歯科に連れていけない」「児童が、歯科に行きたいが親が忙しすぎて連れていってもらえないと訴える」。県保険医協会が養護教諭らに実施したアンケートには、窮状を

伝える記述が並ぶ。要保護や準要保護など低所得世帯は学校側の配る医療券で治療は原則無料だが、制度が必ずしも受診に結び付くとは限らない実態が浮かぶ。

2016年度の県の調査でも、医療券配布の対象世帯の未受診率は小学校で72%、中学校80・1%と、援助を受けていない児童・生徒とほぼ変わらない高さだった。アンケートで「医療券の発券が遅い」「申請に手間が掛かるため簡素化が必要」との指摘もあった。

また「医療券のない家庭は歯科治療が後回しになる傾向がある」など、窓口負担をなくすよう訴える意見も多かった。

全国ワーストの虫歯本数

文部科学省の17年度調査で、県内12歳児の永久歯の平均虫歯本数は1人当たり1・7本。歯科教育の充実などで改善傾向にあるものの依然、全国平均(0・82本)に比べ高く、全国ワーストだ。歯垢(しこう)が相当付着したり、歯肉の診察が必要だと判断されたりした児童・生徒の割合も高止まりする。

県は17年度、「歯と口の健康づくり推進計画」を初めて策定した。試験的に保護者向けの歯科講話などを始めている那覇市の天妃小学校と上山中学校では、16年度85・9%(天妃)、86・7%(上山)だった未受診率が取り組み後の17年度はそれぞれ73・8%、64・4%と大幅に改善した。

県は今後も3年計画で受診率向上のほか、虫歯や歯周疾患の未然防止に向けた啓発活動を加速させるという。

小中学生の窓口無料化を

県保険医協会理事で照屋歯科医院(沖縄市)の照屋正信院長の話 アイスクリームなど甘いものの県内消費量は全国最低水準で、学校での給食後の歯磨きや、虫歯に効果があるフッ化物洗口(フッ素うがい)の実施率は全国平均並みだ。

虫歯を引き起こすとされる主な要素に大きな問題がないのに、12歳児の虫歯罹患(りかん)率が全国1位なのはなぜか。データのそろった18府県の数値を検証すると、子どもの貧困率が高い府県ほど未受診率も高く、虫歯罹患率に貧困の要素が絡んでいる傾向が示された。

県内は医療費の自己負担ゼロの流れが進むが、通院時に窓口での自己負担が一切発生しない「現物給付」方式を小中学生ともに導入している市はない。一時的でも窓口で発生する現金負担は受診控えを招く一因になっている。

親の意識の低さなど多様な要因もあるが、まずは金銭面の心配なく誰もが安心して治療を受けられるよう多く市町村で小中学生の窓口無料化を進めてほしい。

沖縄タイムス 2018年11月23日

<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/349014>

Point of View

◎沖縄県は、学校歯科検診で、治療が必要な子どもの未受診率が全国ワーストだったようです。子どもの貧困率が高いほど、未受診率も高く、むし歯罹患率に貧困の要素が関係しているようです。患者の窓口負担を軽減させて、受診率を上げることが健康な日本を作っていく上で重要だと思います。

▼歯の神経組織を培養・保管 大阪のエア・ウォーター、神戸に子会社

産業用ガス大手のエア・ウォーター(大阪市)は28日、歯の神経組織「歯髄」を使った医療関連事業を行う完全子会社を、神戸・ポートアイランド2期の神戸医療産業都市に設立したと発表した。患者自身の歯による再生治療技術確立を見据え、歯科医院や口腔外科の患者から不要になった歯の提供を受けて歯髄幹細胞の培養、保管を行う。2021年の事業化を予定している。

子会社はアエラスバイオで、8月に設立した。資本金1千万円、従業員5人。グループ会社で歯科材料通販最大手の歯愛メディカル(石川県)に対する第三者割当増資を19年3月に実施し、出資比率をエア社70%、歯愛社30%とする。国内約6万件の顧客を持つ歯愛社のネットワークを活用する。先行して口腔ケア商品を開発、販売する。

事業化に向け、エア社は今年4月、幹細胞の最適な培養方法や歯髄の搬送方法の共同研究を、国立長寿医療研究センター(愛知県)と始めた。アエラス社内に19年度、幹細胞の培養、保管施設を完成させる。将来、再生治療技術の研究開発にも取り組む予定だ。

エア社の医療用ガスや病院設備など医療関連事業は成長を続け、18年3月期の連結売上高は約1700億円と、全体の23%を占める。歯科事業には11年に参入、16年に歯愛社株の40%を取得し、持ち分法適用会社にした。

神戸新聞 2018年11月29日

<https://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/201811/0011860304.shtml>

Point of View

◎患者自身の歯による再生治療を見据えて、患者から不要になった歯の歯髄幹細胞の培養、保管を行う事業が神戸に設立されたようです。実用化の可能性はあるのでしょうか。似たような会社が広島にもあったような気がしたのですが、そちらはどうなったのでしょうか。

▼医療機関の倒産が増加、要因は歯科医院

2018年の医療機関（病院・診療所・歯科医院）の倒産（法的整理のみ）は、10月末時点で33件。このままのペースで推移すると、年間の倒産件数は40件前後となる見込みだ。2000年以降で見ると2009年（52件）、2007年（48件）に次ぐ水準になる可能性もあるのだが、その大きな要因は歯科医院の倒産件数急増にある。

医療機関の倒産を底上げ

2000年から2017年までの歯科医院の倒産件数推移（グラフ参照）を見ると、最多だったのは2009年、2012年、2014年の各15件。昨年は10件と落ち着きを見せたが、今年は6月末時点で15件に達し、以後、毎月件数を更新してきた。10カ月間でこれまでの最高（15件）を約3割上回っていることは、病院、診療所の倒産が引き続き小康状態で推移するなか、2018年の医療業界を特徴づける最たる動向と言える。



関西以西に集中、北海道・東北はゼロ

では、なぜここに来て歯科医院の倒産が増えているのか？その理由は断定できないものの、20件を分析すると、いくつかの傾向が見えてくる。1つ目は20件中13件（構成比65.0%）が個人経営、17件（同85.0%）が負債1億円未満と小規模事業者が大半を占めていること。倒産態様は18件（同90.0%）が「破産」を選択している。もう1つは所在地別の特徴だ。大阪府（5件）、福岡県（3件）など実に13件が関西以西に所在し、北海道および東北はゼロ。施設数は関東エリアに集中しているはずだが、同エリアの倒産は4件にとどまっている。

2007年	67,798	2013年	68,701
2008年	67,779	2014年	68,592
2009年	68,097	2015年	68,737
2010年	68,384	2016年	68,940
2011年	68,156	2017年	68,963
2012年	68,474	2018年	68,590

各年10月1日現在の数値。2017年、2018年は8月末の数値

全国に6万8590施設

厚生労働省によると、2018年8月末時点の歯科医院の施設数は全国に6万8590となり、2009年以降、6万8000件台で推移している。かつては駅から離れた住宅街に歯科医師夫婦で経営する個人医院をよく目にしたものだが、近年オープンする歯科医院は、競争激化の影響から“駅近”や“夜間診察”が共通のキーワードとなり、休日に家からではなく、通勤・通学途中に通えることをアピールポイントとしている。なかには、医療モール内にオープンして相乗効果を狙うケースもある。今後は、中小企業同様、高齢の経営者の施設を中心に、代替わりできない場合、清算・廃業できるかがポイントとなるが、倒産減少の要素はこれと見て見当たらぬ、増加傾向は今後も続くことが予想される。

Yahoo News 2018年12月6日

https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20181206-00010000-teikokudb-bus_all

Point of View

◎2018年の医療機関の倒産件数が増加しているようです。その原因は歯科医院の倒産件数の急増のようです。関西より西の個人経営の小規模歯科医院の倒産が多いようです。医療機関の中でも、競争激化の影響が大きい歯科が苦境に陥り始めていると考えられます。これからの歯科界はどうなっていくのでしょうか。

▼がん見落とし 画像技術が高度化、医師追い付かず

医師ががんの画像を見落とししたため、患者が治療の機会を逸し、死亡する深刻な事例が相次いでいる。背景には、専門領域が分化して医師や職員間で情報が共有しにくくなったり、画像診断技術が高度化し医師の目が追い付けなくなったりする状況がある。「（患者が）亡くなられた点で大変重い事案。どう再発防止を図っていくか、多くの区民が注目している」。15日に公表された東京都杉並区の検証委員会の最終答申では、行政や医師らに早期の改善を促した。昨年には東京慈恵医大病院（東京都港区）で、肺がんの疑いが発見された男性＝当時（72）＝が1年間放置され死亡。今年8月には北九州市立医療センターで、60代男性が肺がんを見落とされ、死亡したことが発覚するなど、近年は重大なケースが顕在化している。日本医学放射線学会によると、医療の高度化で画像診断の件数や撮影画像数が増えたため、情報量が著しく増加。画像撮影はかつて数分で1枚だったのが、息を1回止める数秒間で数百枚撮れるようになった。放射線診断専門医は約5千人いるが、検査数の増加に人員が追い付かないという。

さらに臨床医の専門化が進み、「各医師のコミュニケーションが不足するようになった」（放射線学会）。主治医は専門分野だけに注目し、周辺に写っている他の臓器に注意を払わない傾向にある。特に電子カルテが普及し、紙の報告書でやり取りすることが少なくなり、メールで画像を添付し開くことなく放置されるケースもあった。医療事故情報を収集している日本医療機能評価機構が、平成27年1月～今年3月までに報告された37件の画像見落としを調べたところ、大半のケースで見落とししていた部位が主治医の専門外だった。画像には専門外の周辺の臓器が写り込み、医師の目が届きにくかったという。患者側に自衛策はあるのか。医療過誤に詳しい小林洋

二弁護士は「検査情報を医師に要求し、患者側で管理してもよい。他の医師によるダブルチェックに利用したり、見逃した事案に対抗できる」と話した。

産経ニュース 2018年11月16日

<https://www.sankei.com/life/news/181116/lif1811160005-n1.html>

Point of View

◎医療の高度化で画像診断の件数や撮影画像数が増え、情報量が著しく増加することにより、かえって診断が難しくなってきたとの事です。確かに、大量の情報の処理をするには、マンパワーが必要になりますが、専門医などの人員の数を考えると、限界もあるのかもしれませんが、すごく難しい問題かと思いますが、ダブル・トリプルチェックなどを行い、少しでも見落としやミスが起きないようにする対策が必要ですね。

▼エボラ抑制の化合物発見 鹿児島大の研究グループ

鹿児島大難治ウイルス病態制御研究センター(鹿児島市)の馬場昌範教授(63)らの研究グループは20日までに、エボラ出血熱の原因となるエボラウイルスの増殖を抑える化合物を発見したと発表した。国際学術誌「アンチバイラル・リサーチ」の電子版に3日、研究結果が掲載された。

化合物はマラリア治療薬「アモジアキン」の化学構造を基に作製。馬場教授はマダニが媒介する感染症の治療薬開発を目指した研究を行う中でアモジアキンを使っていたが、エボラ出血熱の死亡率を低下させる効果もあるとする別の研究者の論文が発表されたことから、エボラに関する作用も研究していた。

共同研究している米国の研究者が行った実験で、アモジアキンの化学構造を変えて作った約100種類の化合物のうち一つがエボラウイルスの増殖を強く抑える効果を示したという。今後も米国で動物実験を行うなどして、治療薬の完成を目指す。

産経ニュース 2018年11月20日

<https://www.sankei.com/life/news/181120/lif1811200030-n1.html>

Point of View

◎エボラ出血熱については、まだアフリカが流行の中心になっていますが、アフリカにいた人がいつでも日本に来ることができる以上、日本も感染拡大の対策を考えておかなければいけないと思います。今回の発見が、ワクチンや薬剤として、早く製品化されることが望まれます。そしてアフリカなども含めた、世界中の医療機関で使用できるようになればいいですね。

▼腹腔鏡と内視鏡の合同手術 最小限の切除で胃を残す

手術の範囲を小さくすることは、患者の体への負担を軽減し、生活の質を高めることにつながる。胃の腫瘍を、口から入れた内視鏡とおなかから入れた腹腔(ふくくう)鏡で協力して切除する手法が開発され、良好な成績を収めている。開腹が不要で切除が最小限で済むため胃が温存され、手術後も食欲、体力を保つことができるのが最大の利点だ。この手術の開発、普及に当たる専門家に聞いた。

■生活の質低下

この「腹腔鏡内視鏡合同手術」は英語の頭文字からLECS(レックス)と呼ばれる。今のところ、胃の粘膜下に発生する消化管間質腫瘍(GIST=ジスト)や早期の胃がんなどが対象だ。国立がん研究センターによると、日本でGISTの患者は10万人に1、2人とされる。レックスを開発したがん研究会有明病院(東京)の比企直樹胃外科部長によると、小さな粘膜下腫瘍は、以前には経過観察することも多かった。だが、半年ごとの検査は患者の負担もコストも大きい。小さくても転移する恐れがあることも分かり、早期手術が主流になった。とはいえ、開腹手術では少なくとも胃の3分の1を切除する。胃が変形して食べ物を通らなくなったり、胃から分泌されるホルモンが失われたり、逆流性食道炎が起きたりする。食べられなくなれば、筋力の衰えや体重低下が起き、生活の質は大きく低下する。

■弱点補い合う

より負担の小さい方法はないか。おなかに開けた穴から挿入した腹腔鏡による手術、口から入れた内視鏡による切除がそれぞれ開発されたものの、それぞれの手法に弱点があった。比企さんによると、腹腔鏡手術では、腫瘍が胃の内側に膨らむと患部が見えない。腫瘍に切り込んで、取り残しや転移の危険が高まるので、安全のためどうしても切除範囲が広がる。一方、内視鏡による切除で多数の実績があり、今ではレックス手術も手掛けている北里大病院(相模原市)消化器センター長の田辺聡教授は「胃壁に穴を開けてしまうと、内視鏡では患部を縫い合わせられない。切除には細心の注意が必要で、対象の腫瘍の大きさも限られていた」と話す。双方の弱点を補い合うのがレックスだ。腹腔鏡医と内視鏡医が連携、協力して手術する。まず、内視鏡で胃の内側から患部を観察。切除すべき範囲を特定して「切り取り線」を付ける。内視鏡で線上の1カ所だけ胃壁に穴を開け、腹腔鏡は、その穴から胃壁に切り込む。手術室のモニター画面で胃の内外の映像を確認し、声を掛け合いながら切り取り線に沿って切除することで、必要最小限の摘出が可能になった。

■何でも食べられる

もともと腹腔鏡手術を手掛けていた比企さんは平成18年、院内の内視鏡医に呼び掛けてこの手術を初めて実施。20年には成果を論文にし、全国の多数の医師と勉強会を発足させた。19~23年に8医療機関

で行われた計126例では、中央値で4年半の観察で再発は皆無。安全性が確かめられ、26年には胃の局所切除法として保険適用された。手術は平均3時間余り。10月にこの手術を受けた30代の男性患者は、地元病院からの紹介で有明病院に来院。翌日には手術し、2日後には飲み物を、3日後には流動食を取ることができた。10日で退院し、翌週からは職場復帰。「以前と同様に何でも食べられる」と喜んでいる。比企さんは「リンパ節転移の有無が確認できるようになれば、より多くの胃がん用に用いられるだろう。大腸など下部消化管にも応用が見込める」と話している。

産経ニュース 2018年12月7日

<https://www.sankei.com/life/news/181207/lif1812070010-n2.html>

Point of View

◎外科医と内視鏡医とのコラボレーションといわれている、LECSとは腹腔鏡・内視鏡合同手術(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery)の略称で、内視鏡治療と腹腔鏡手術を同時に行うことで、必要最小限の侵襲で腫瘍切除を可能とする新しい手術方法とのことです。胃粘膜下腫瘍をはじめとした疾患において、試験的に行われていますが、将来的には対象疾患の拡大が期待されています。侵襲が最小限というのは、素晴らしいことだと思います。今後に期待ですね。

▼心のケアにあたる「公認心理師」初の国家試験、合格率は8割

厚生労働省は11月30日、心のケアにあたる国家資格「公認心理師」の初めての国家試験に2万7876人が合格したと発表した。

受験者数は3万5020人で、合格率は79.6%。試験は今年9月に実施されたが、北海道では地震の影響で試験が中止され、12月に追加試験が行われる。

公認心理師の資格はうつ病や虐待、不登校など心の問題が深刻化し対応が求められる中、一定の質や技術を確保するため、2015年成立の法律で新設された。

yomiDr (2018年12月3日)

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20181203-0YTET50009/?catname=news-kaietsu_news

Point of View

◎現代の社会情勢を反映したような資格が誕生しました。これからも社会の諸問題を解決すべく新たな資格が増えていくのかもしれませんが。歯科医師もその一翼を担う存在として社会に貢献していく必要があります。

▼22大学で医学部「地域枠」欠員2割超、一般枠で穴埋め

医師不足を解消するため大学卒業後の一定期間、地域医療に従事することを義務付ける医学部の「地域枠」をめぐる、2018年度に約30大学の定員が埋まらなかった問題で、このうち22大学は2割を超える定員割れを起こしていたことが、文部科学省と厚生労働省の調査で明らかになった。

地域枠は、医師不足に悩む自治体が奨学金を出し、返済を免除する代わりに卒業後の数年間、指定する地域で勤務してもらう制度。

定員割れが目立つのは、「一般枠」と区別せずに入試を行い、その前後に地域枠の希望者を募る「手挙げ方式」の大学。最多は千葉大、信州大、東北大の各16人で、22大学では計161人に上る。

これらの大学は、定員割れの分を一般枠で埋めており、厚労省は、地域枠制度の趣旨に反する不適切な運用だとしている。定員割れが2割超の大学は次の通り(カッコ内は奨学金を設けた府県と欠員数)。

【国立】▽千葉(千葉16)▽信州(長野16)▽東北(宮城16)▽筑波(茨城13)▽山形(山形12)▽長崎(長崎12)▽滋賀医科(滋賀5)▽鳥取(鳥取4、山口1)▽香川(香川4)▽熊本(熊本4)▽岡山(広島2、兵庫1)▽佐賀(佐賀3)

【私立】▽近畿(和歌山6、静岡4、大阪3、奈良2)▽北里(神奈川5、茨城2、山梨2)▽帝京(千葉4、福島2、静岡1)▽久留米(福岡5)▽川崎医科(長崎4)▽東京医科(茨城3)▽独協医科(栃木3)▽順天堂(静岡3)▽東海(神奈川2)▽杏林(茨城1)

yomiDr (2018年11月28日)

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20181128-0YTET50035/?catname=news-kaietsu_news

Point of View

◎せっかく「地域枠」として設定しているのに、定員割れしたからと言って一般枠で穴埋めするというのでは、主客転倒といわれても仕方ありません。このような行為には何らかのペナルティが課されて当然ではないでしょうか。そうしないとせっかくの「医療不均衡」への対応がなかなか進みません。

▼肝臓再生促す仕組み解明＝脳から指令、免疫細胞刺激—東北大

肝臓が手術などで大きく傷ついた際、脳が信号を出して急速な再生を促す仕組みを東北大の研究チームが解明した。肝臓がんなどの手術や治療に役立つ可能性があるという。論文は14日までに、英科学誌ネイチャー・コミュニケーションズ電子版に掲載された。肝臓は大きなダメージを負うと急速な再生が起きることは知ら

れていたが、その仕組みは詳しく分かっていなかった。

東北大学大学院医学系研究科の今井淳太准教授らがマウスで行った実験では、肝臓が傷つくと、自律神経を通じて脳からの信号が肝臓に届き、肝臓内の免疫細胞を刺激することが判明。この免疫細胞が分泌する物質により、肝臓の急速な再生が進むことが分かった。自律神経を切除すると生存率が低下したという。老化したマウスでは急速な再生が起きにくいといい、研究チームの片桐秀樹・同大学院教授は「臓器の老化がなぜ起こるかや、老化のダメージを抑えることにつなげる手法にも応用していければ」と話している。

yahoo ニュース 2018年12月14日

<https://headlines.yahoo.co.jp/cm/main?d=20181214-00000198-jij-sctch>

Point of View

◎肝臓は、常に分解、再生でバランスを保つ臓器であり、異常速度で分解して、それが原因で死に至るケースもある劇症肝炎や、肝硬変などの疾患に対し、再生を正常に促す上で、非常に有用な報告ではないかと考えます。臨床応用へは、まだ時間がかかるかもしれませんが、今後に期待したいですね。

▼ “客の悪質クレーム” はハラスメント 指針策定へ

店の従業員が客からの暴力や説教など悪質なクレームを受けるケースが相次いでいることから、厚生労働省は、客による迷惑行為から従業員を守るための初めての指針を策定する方針です。

小売店や飲食店などでは、従業員が客から暴力や説教など悪質なクレームを受けるケースが相次いでいて、労働組合の調査では、被害を受けたことがある人が7割に上りました。

このため厚生労働省は客による悪質なクレームの被害を防ごうと、初めての指針を策定する方針です。指針では、悪質なクレームについて職場内のパワハラと同じような迷惑行為と位置づけ、従業員を守るために企業が取り組むべき対策を盛り込むことにしています。

また、どんな行為が迷惑行為にあたるかについても示される見通しです。

客による迷惑行為は「カスタマーハラスメント」とも呼ばれていますが、防ぐための法律や指針ではなく労働組合や一部の企業から整備を求める声が上がっていました。

厚生労働省は今後、パワハラやセクハラ対策を協議する審議会で、指針の具体的な内容について検討することになっています。

NHK NEWS WEB 2018年11月16日

https://www3.nhk.or.jp/news/html/20181116/k10011712931000.html?utm_int=nsearch_contents_search-items_005

Point of View

◎厚生労働省は、小売店や飲食店などで、従業員が客からの悪質なクレームによる被害を防ぐための指針を策定する方針です。歯科医院においても、患者からの理不尽な悪質クレームを受けることもよくあると思います。最近ではインターネットの口コミサイトや、SNSに医院に対する悪質なクレームや、誹謗中傷による風評被害も数多くあるようです。投稿する側は匿名で投稿できるため、逆恨みによるモラルの無い書き込みも多いようです。こちらの規制も必要かと思われます。

▼ 自分は「家族葬で」 最多44%—葬祭大手が調査

自分自身の葬儀について、「家族葬」を望む人が4割を超えて最も多いことが、葬祭サービス大手「メモリアルアートの大野屋」（東京）の調査でわかった。核家族化や葬儀に対する意識の変化から、親しい人たちだけで送り出してもらいたい人が増えている。

調査は9月、全国の10歳以上の男女を対象にインターネットで行い、2347人から回答を得た。

自分が亡くなった時の葬儀について、「してほしい」は26%、「自分の希望通りの葬儀ならしてほしい」は38%で、合わせて6割を超えた。残りは「してほしくない」だった。

してほしい葬儀は、家族葬が44%で最も多く、「宇宙葬、海洋葬など」が17%、「お別れ会のようなカジュアルな葬儀」が13%、「宗教色のない葬儀」が10%と続いた。家族葬を望むのは、10、20歳代は39%だったが、70歳代以上は62%に上り、年齢が高いほど希望者が多い傾向があった。

一方、葬儀を「してほしくない」と回答した人の理由（複数回答）は「お金がかかる」（30%）、「面倒」（16%）、「古くさい」（14%）などだった。

yomiDr (2018年12月11日)

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20181211-0YTET50032/?catname=news-kaisetsu_news_senior-news

Point of View

◎確かに最近ではあまり大掛かりな葬儀に出会うことは少なくなりました。景気の低迷というのが一因とも考えられますが、昔のような大家族制の崩壊や親戚縁者とのつながりが希薄となった昨今、「あまり家族以外と関わりを持ちたくない」という考えが浸透しつつあるのではないのでしょうか。



FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」

FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」サイマルラジオスタート

「お口の健康広場デンタルパーク」 広島すまいるパフェ 第1・3水曜日午後0時50分から



1月16日放送分

「歯並びと全身の関係」 広島市歯科医師会 広報部

綺麗な歯並び、口元はみなさんの憧れと思います。どのようにすれば理想的な歯並びになるか？また、維持するために必要な事と、歯並びが全身に大きく影響する事などについてのお話

を広島市歯科医師会の先生がお話しします。お口に関する悩みや質問はメール dental@chupea.fm、FAX 082(297)7660 へ。

1月30日放送分

「歯周病とメタボリックシンドロームについて」 広島市歯科医師会 清水賢氏

メタボリックシンドロームとは何か、肥満がなぜ動脈硬化性疾患のリスクを高めるか、また、歯周病とメタボリックシンドロームの共通項や関係性

と、健康でいるために何をすればよいかについて広島市歯科医師会の清水賢先生がお話しします。お口に関する悩みや質問はメール dental@chupea.fm、FAX 082(297)7660 へ。

12月定例理事会報告

「部外報告」

- 12月 4日 再審査
- 12月6-7日 第82回全国学校歯科保健研究大会
- 12月 7日 県立広島病院医局会主催忘年会
- 12月 9日 三師会ゴルフコンペ
- 12月13日 新規個別指導
- 12月14日 三師会協議懇談会
- 12月17日 (県)第2回公益社団法人移行検討特別委員会
- 12月18日 広島市連合地域保健対策協議会「災害時医療救護検討委員会」
- 12月21日 警察歯科委員会
- 12月21-25日 社保診療報酬審査(合議25日)

(連盟関係)

- 12月10日 中本弘広島市議会議員在職50周年記念祝賀会
- 12月19日 ゆざき知事を囲む県政懇談勉強会2018年12月度
- 12月20日 広島山田宏会

「総務関係」

- 12月 1日 B型肝炎ワクチン接種(第3回目)
- " 西区支部忘年会

- 12月 3日 職員採用面接(1名)
- " クリスマスパティー配席検討会
- 12月 5日 南区支部忘年会
- 12月12日 職員採用面接(3名)
- " 上期決算報告
- 12月13日 創立100周年記念事業第15回会誌編纂委員会
- 12月17日 送別会
- 12月19日 第5回支部長・副支部長会
- " 広島市歯科医師等認知症対応力向上事業研修会
- 12月22日 広島市歯科医師会クリスマスパーティー
- 12月25日 三役会
- " 創立100周年記念事業第16回会誌編纂委員会
- 12月26日 定例理事会
- " 役員忘年会

(慶弔関係)

- 11月29日 中区支部 清水徹先生ご逝去
- 12月 3日 西区支部 杉原洋通先生ご逝去

(入会退会関係)

- 12月 3日 中区支部 石田一輝先生入会
- 12月10日 入会前面談(川越亮利先生、

小野裕記先生)
入会後面談 (石田一輝先生)

(県歯医学会関係)

12月 6日 県歯医学会

(1) 総務部 (中島理事)

12月10日 入会前面談 (川越亮利先生、
小野裕記先生)
入会後面談 (石田一輝先生)
12月14日 総務部委員会
12月17日 送別会
12月18日 広島市連合地区地域保健対策
協議会
12月22日 広島市歯科医師会クリスマス
パーティー
12月25日 中区支部新入会員説明会
(川越亮利先生、小野裕記先生)

(2) 学術部 (岸本理事)

12月 7日 定例委員会
12月17日 送別会
12月22日 広島市歯科医師会クリスマス
パーティー

(3) 保険・医療対策部 (瓜生理事)

11月29日 YMCA 講義
11月30日 休日救急レセプト点検
12月 3日 クリスマスパーツ配席検討会
12月 6日 YMCA 講義
12月10日 会員面談
12月12日 (県) 保険部常任委員会
12月13日 入会前面談
" 新規個別指導
12月14日 国保連合会歯科再審査部会
12月15-19日 国保連合会歯科審査部会
12月15日 (県) 参与会
12月17日 入会前面談
12月19日 定例委員会
12月22日 広島市歯科医師会クリスマス
パーティー

(4) 地域歯科保健部

12月12日 (県) 地域保健部、学校保健部、
介護・福祉医療部、口腔保健
センター一部常任委員会
12月17日 送別会
12月19日 平成30年度広島市歯科医師等

認知症対応力向上研修会

12月20日 定例委員会
12月22日 広島市歯科医師会クリスマス
パーティー

<学校保健> (有馬理事)

11月30日 (県歯衛連) 第3回保育園での
歯科疾患及び歯科保健活動の
実態調査会議
12月 6日 広島市私立保育園協会との協議
" 南区医療介護連携情報シート
検討会議
12月 7日 (南区地対協) 段原包括圏域
在宅医療・介護関係者研修会・
連絡会
12月10日 「平成30年度定期健康診断に
おける児童生徒の口腔内の状
況調査」に関する広島市教育
委員会との協議
・平成31年度の「定期健康診断
(歯・口腔) 結果のお知らせ」
改訂について
・平成30年度臨時健康診断及
び就学時健康診断について

<地域連携> (小松理事)

12月 1日 悠悠タウン基町デイサービス
センター開所式
12月 4日 (県歯衛連) 平成30年度広島県
歯科衛生連絡協議会 第1回高
齢者の地域及び施設等内におけ
る歯科口腔保健の推進検討会議
12月 8日 (中区地対協) 第11回吉島圏域
多職種連携会議
14:00 集合
12月 9日 平成30年度介護予防事業に携
わる専門職のための基礎研修会
12月15日 (中区地対協) 江波圏域多職種
連携会議 小委員会
12月17日 中区地域ケアマネジメント会議
12月19日 (連合地対協) 平成30年度広島
市在宅医療・介護連携推進委員会
第2回専門委員会「摂食嚥下・
口腔ケア対応力の向上に向けた
多職種連携の体制づくりの検討」
(広島医師会館3F 健康教育室)
12月20日 平成30年度第3回広島市地域
包括支援センター運営協議会
" 平成30年度第2回広島市地域

密着型サービス運営懇談会

12月21日 土谷病院病院長、連携室看護師長、事務部長との協議

<地域保健> (能美理事)

12月1日 (県)地域保健・産業保健フォーラム

12月9日 三師会ゴルフコンペ

12月18日 協議会対応

// (県)平成30年度歯科口腔機能管理等研修事業「歯科医療機関による歯科口腔機能管理等研修事業」第4回委員会

12月19日 (県)広島県歯科衛生連絡協議会職域における歯科保健推進会議準備委員会

12月21日 (東区地対協)第3回常任理事会・理事会
福祉対策協議会実績状況

(5) 広報部 (橋岡理事)

12月4日 委員会

12月10日 委員会 (情報発信部)

12月13日 創立100周年記念事業 第15回
会誌編纂委員会

12月18日 委員会 (情報調査部)

12月22日 広島市歯科医師会クリスマス
パーティー

12月25日 創立100周年記念事業 第16回
会誌編纂委員会

FMちゅーピー (新聞掲載)

1月16日 「歯並びと全身の関係」
広報部

1月30日 「歯周病とメタボリックシンド
ロームについて」
清水賢氏

(6) 広島市歯科医師会ホームページについて

ホームページアクセス数

一般サイト 訪問者 3,583 (累計 93,818)

ページビュー 12,989 (累計 352,595)

会員サイト 訪問者 252 (累計 26,351)

ページビュー 789 (累計 206,895)

広報部 … Talking Heads<最新情報>

掲載件数 102件 (11/21~12/20)

(7) 特別委員会

(8) 救急蘇生委員会

(9) 創立100周年記念事業について

12月13日 創立100周年記念事業 第15回
会誌編纂委員会

12月25日 創立100周年記念事業 第16回
会誌編纂委員会

(10) 各部事業計画について

(11) 歯科医療安全相談

12月26日 苦情 子どもの歯科治療につ
いて (30歳代女性)

「協議事項」

(1) 入会について (4名)

中区支部の小野裕記氏、川越亮利氏、
住田真一氏の入会について承認。1名
継続審議中

(2) 医療安全講習会について

内容について確認

(3) 広島市歯科医療福祉対策協議会

学術講演会について (協議会)

内容について確認

(4) 仁保中学校、段原中学校の学校歯科医
選任について

大保順一氏の後任に水町亘氏を推薦
することを承認 (仁保中学校)

向井泰司氏の後任に古谷知之氏を推
薦することを承認 (段原中学校)

(5) 楠那保育園の嘱託歯科医選任について

木村一水氏の後任に内田雄士氏を推
薦することを承認

(6) 広島市立学校・保育園等で実施する
歯科保健教育に使用する歯間清掃用具
等の支給について

内容について検討・協議

(7) 2歳児フッ素塗布事業について

内容について確認

(8) 冊子について

内容について確認

(9) その他

特になし

「その他」

特になし

会員の皆様へ

広島市歯科医師会だよりに関するご意見やお問い合わせは、各記事に担当部がある場合は、担当部の理事あてにお願いします。それ以外については、広島市歯科医師会事務局ないしは広報部担当理事橋岡優までお寄せ下さい。

広島市歯科医師会事務局 E-Mail: hiroshima@dentalpark.net

広報部担当理事 橋岡優 E-Mail: s.d.c@helen.ocn.ne.jp

広島市歯科医師会ホームページ <http://www.hiroshima-da.com/>

会員専用ページ

ユーザー名 : **Futaba**

P A S S : **2622662**

広島市歯科医師会の住所及び連絡先

〒732-0057

広島市東区二葉の里 3 丁目 2 番 4 号

広島市歯科医師会 TEL : 082-262-2662

FAX : 082-262-2668

休日診療専用電話 TEL : 082-262-2672

